

野蒜復興新聞

10月3日、野蒜地区復興協議会の高台移転部会が開催され、部会員と市関係者合わせて約30人で協議しました。主な協議事項は前回に引き続き「まちづくりルール(案)」についてです。

「まちづくりルール」は、住宅建設等に係わる新たな制限を定めるものではなく、新しいまちをつかっていく際に、より住みやすいまちになるように、これまで皆さんが生活してきた中で守ってきた暗黙のルール等を文章化し、定めるものであり、現在は具体例をあげながらイメージを確認する作業



顧問の先生からは、写真を利用したまちづくりガイドラインなどを作成することで街並みのイメージが持ちやすくなることと、また災害公営住宅の仮入居世帯が決定したら、高台移転部会内での情報共有ができる場を設ける等の工夫が必要であることなどの提案をいただきました。

また部会員から電線の地中化についての質問があり、市としては電線地中化の計画はないが、野蒜1号線(幹線道路)の一部を無電柱化することについて検討しているという回答がありました。

このため、まちづくりルールに基づく街並みの事例として、利府の「葉山ガーデンズポルト」、名取の「めでしまの郷」、富谷の「スマートコモンシティ明石台」の写真など利用し、具体的なイメージの共有を図りました。これら他地区の事例等は全体会で紹介できたらと協議を進めています。

利府 名取 富谷等
街並イメージ共有



高台造成地の土砂を運搬するため、運河をまたぐベルトコンベアを建設中の東名運河

復興部会

今年度第7回目の復興部会が10月24日に開催されました。このたびの主な協議事項は「アンケートのとりまとめについて」であり、今年2月に野蒜地区（被災地）在宅住民が抱える課題を把握し、可能な対策を実施するために復興部会で実施したものです。アンケートは二百四十六戸へ配布し、二百四枚（回収率83%）回収し、困っていることの多い順と行政区別でまとめ、3月に1度在宅住民の方へ中間報告を実施しました。その後、今日まで復興部会で課題解決の検討と活動を実施し、このたびはその活動結果の最終報告をまとめる協議を行いました。協議項目は①防災②防犯③通勤・通学④医療⑤商店・コンビニ⑥行政区の6つで、これらの検討結果をとりまとめました。また跡地利用（案）については、部会員から環境未来都市



を目指しているのだからもっとソーラー発電等を盛り込んでいくこと、地震や津波リスクの研究所や体験施設など、特別な仕掛けを盛り込んでいく必要があることなど提案されました。次回にはさらに市から示された土地利用基本計画（案）について協議を進めていきます。

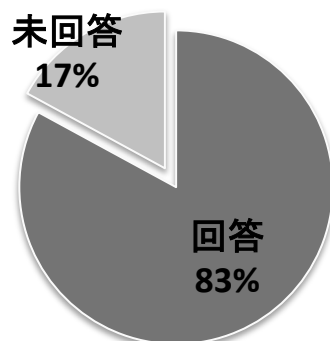
また会議前に部長から「お地蔵さんプロジェクト」の進捗状況の報告がありました。山形県NPO法人が震災で亡くなられた方の鎮魂と心のよりどころとなるよう、お地蔵さんを建立する活動を実施しており、野蒜地区への建立を昨年度から協議しているものです。現在は住民と市との調整も進み早ければ今年度中には完成する見込みもあるということです。

造成工事進捗情報毎月更新中

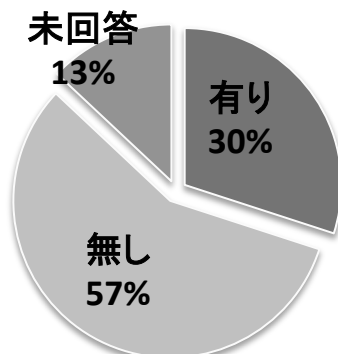


野蒜北部丘陵地区の造成工事進捗状況の写真とポスターを共同企業体（CJ）事務所が毎月野蒜市民センター前の掲示板へ張り出しております。衛星から撮影した写真や、現在土砂運搬のために設置しているベルトコンベアを設置しているベルトコンベア区域のため池で確認できた保全中の植物「ミスオオバコ」の生育状況写真、工事スケジュールから、通行止め情報などが盛り込まれています。また別途にポスターと同じ内容のチラシも野蒜市民センターへ設置しておりますのでぜひご利用ください。

在宅住民の声



在宅住民の声、アンケート回収率



困っていることの有無比率

※2013.2在宅住民204世帯のアンケート結果